

会 議 録

日 時	平成 25 年 4 月 13 日（土） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
会 場	北部地区サービス事務所 第 1 第 2 会議室 (目黒区大橋一丁目 5 番 1 号 クロスエアタワー9 階)
出 席 者	委員) 石川委員、市田委員、伊藤委員、上田委員、倉本委員、西村委員、早野委員、 矢野委員、渡島委員
	区側) 都市整備部長、みどり公園課長、環境保全課長、環境計画課長、 事務局 9 名、東京大学 1 名、中外テクノス(株)3 名
傍 聴 者	3 名
配 布 資 料	資料 1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 資料 2 (2) 基本目標について (基本テーマと目標設定) 資料 3 (3) 施策の方向性 (施策の方向性と柱立て) 資料 4 (4) 懇談会の開催に向けて 資料 5 (5) 「80 選のいきものたち (仮称)」の作成について 資料 6 平成 24 年度の各種調査結果 資料 7 生物多様性に配慮した商品のエコラベル等について 資料 8 愛知目標と目黒区の間連 資料 9 意見の追加提出用紙 その他 各種パンフレット
会 議 次 第	1 開会 (1) 傍聴及び議事録について (2) 委員の出欠について (3) 事務局からの連絡 2 議事 (1) 第一回策定委員会の意見と検討事項の確認 (2) 基本目標について (基本テーマと目標設定) (3) 施策の方向性 (施策の方向性と柱立て) (4) 懇談会の開催に向けて (5) 「80 選のいきものたち (仮称)」の作成について (6) その他 3 第 3 回目黒区生物多様性地域戦略 (仮称) 策定検討委員会に日程について

<p>会議の結果 及び 主な発言</p>	<p>1 開会</p> <p>(1) 傍聴及び議事録について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事録の発言者名の公開について 第一回及び第二回の議事録について、発言者名を記して公開する。 ⇒全員容認 ・傍聴についての確認 合計3名の傍聴について確認。 ⇒全員容認 <p>(2) 委員の出欠について ⇒全員出席</p> <p>(3) 事務局からの連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の確認 <p>2 議事</p> <p>(1) 第一回策定委員会の意見と検討事項の確認 担当：みどりと公園課長・・・「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認」について説明</p> <p>【質疑応答】</p> <p>矢野委員： 「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 ウ 目黒区が目指すべき環境像は？（生物多様性のイメージ）」のカラスが多いということについて、第一回委員会で発言した内容を補足させていただきたい。 自然教育園の来園者に見せるための生き物のつながりという生態系ピラミッドの図を用意してきた。普通は三角形になっており、底辺に位置する生産者が一番多く、生態系ピラミッドの上位に位置すればするほど個体数は少なくなるのが普通である。例えばオオタカは、その個体数は非常にわずかで、主に鳥類を捕食する。しかし、カラスは生態系の上位にあるが400～500羽と個体数が多いうえに、ヘビ・カエルなど下位の生物のほとんどを食べる。カエルが食べられれば、普通は虫が増えるはずだが、カラスはその虫すら食べてしまう。このようなカラスの習性は、都市の生態系への影響が大きいと思われる。</p> <p>伊藤委員長： 都会の生物多様性をどう捉えるかについては、目黒区の生物多様性戦略を作るうえで重要である。前回の内容に補足することがあれば伺いたい。</p>
------------------------------	---

倉本副委員長：

「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 ウ 目黒区が目指すべき環境像は？（生物多様性のイメージ）」について、生物多様性には固有性、目黒区に固有なものという考えはあるものの、都市において固有性を考慮するのは、目黒区のような都市では非常に難しい考えである。このことについて整理しておく必要がある。

伊藤委員長：

目黒区にも絶滅危惧種はある程度生育・生息しているものの、自然の豊かな場所と同様に考えるわけにはいかない。都会では、在来種という日本の生物だけにこだわってしまうと難しい。植樹、園芸といった外来種を除外して生物多様性を考えるのは困難である。しかし、環境省の侵略的外来種、つまり、在来の生態系に悪影響を与える種を勘案すれば、何らかの切り分けができると考えられる。他の地域の自然公園とは違った、都会独自の視点が必要である。

倉本副委員長：

一部の絶滅危惧種にも十分配慮すべきである。したがって、委員長がおっしゃるとおり、切り分けが必要であると思う。

伊藤委員長：

絶滅危惧種が生息しているような所は優先して保護しつつも、都会では生き物と触れ合う機会を増やしていくということも、ひとつの方向性になるのではないかと考える。

上田委員：

あらためて「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認」を見ると、目黒区の生物多様性のその多くは、身の回りの生物多様性を扱っているようだが、「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 エ 生物多様性の教育・啓発」について、人間そのものが生態系の中に位置付けられるという啓発活動、すなわち、身の回りの自然というよりもスーパーマーケットで販売されている魚や野菜などをみて、人間自らの位置付けを顧みることと、身近な生物への理解というものが、地域戦略の中で分けて取り扱うか融合させていくかどうかについても議論すべきであると考えられる。

伊藤委員長：

愛知ターゲットの目標を見ると、生物多様性の戦略とは、単に自然を守るばかりではなく、様々なターゲットがあることがわかる。たとえば教育、食糧など様々な目標があるので、目黒区の地域戦略の中ではそれらも十分に勘案すべき事項と考える。

教育の問題、また、「資料1(1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 オ 生物多様性という文言について（代替できるやさしいことば）」について意見はないか。

（質疑事項なし）

伊藤委員長：

「資料1(1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 カ エコロジカルネットワークの形成」の方向性について意見はないか。鳥を中心に、島状の緑を繋げるということについて、それでは地表性の生き物についてはうまく作用しないのではないか、というような方向性について意見はないか。

矢野委員：

鳥の場合は人間から距離のある生き物である。ツバメにしてもシジュウカラにしてもウグイスにしてもそうである。ところが、虫の場合は非常に近くに接することができる。それから、観察会でも子供たちは虫が好きである。したがって、鳥と虫をうまく組み合わせると良い計画ができるのではないか。

ハチやガとなるとイメージは悪いが、チョウの場合、成虫には親しみがあるし、チョウの幼虫の食草を用意したり、成虫の蜜源植物を用意したりすると、その数は結構増える。また、温暖化の影響により、ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、ムラサキツバメなど今まで見られなかったようなチョウが見られるようになっている。その他、一般的に見られるチョウというのはかなりいるので、チョウと野鳥を組み合わせると非常に良いと思う。チョウが増えるとそれを食べに来るクモやカマキリがやって来て、次のそれらを食べる鳥がやって来るという関係が繋がってくるのではないかと考えられる。やはり、野鳥だけよりも虫も少し勘案した方が良いという気がする。「チョウが舞い、鳥がさえざる街づくり」というように、チョウと鳥の2つの生き物を入れた方が良いと思う。

伊藤委員長：

ひとつの生き物に偏らないほうが良く、色々なものを組み合わせる必要がある。

(2) 基本目標について（基本テーマと目標設定）

担当：みどりと公園課長・・・「資料2(2)基本目標について（基本テーマと目標設定）」について説明

【質疑応答】

西村委員：

家の前をガレージにするより、花壇や庭にした方が良いと考える人がほとんどだと思う。こうして緑化した部分をセットバックとして認めるといような事例があれば緑化の運動が広がると考えられ、50年といった長期的な目標の達成に寄与すると考えられる。この場合、条例の面などでの問題はあるか。

事務局（都市整備部長）：

自由が丘で実施されている壁面線は歩道上空地を作ること为目标としているので、花壇などは基本的に設置してはいけない、ということになっている。

西村委員：

自由が丘の緑化と同様の取り組みを区全体で行えば、家の前の半畳くらいのスペースでも、相当な面積になると考えられる。

石川委員：

「(2)基本目標について（基本テーマと目標設定）ウ 目黒区の生物多様性の現状例と主な課題」の活動の所で、花壇ボランティアやグリーンクラブの紹介についてだが、三軒ぐらゐの家が集まってプランターなどに花を植えて、皆さんに見えるように道路際に置く。このようにして、緑化を推進している区のみどりの協定活動がある。

西村委員：

そういう活動について、条例のある地区でセットバックした場所に置くというのが一番美しいと考える。

石川委員：

新築のマンションなどの大きな建物の道路側で、素晴らしい植栽が見られる場所も増えてきている。そのような空間を生み出すといった案もあると良い。

伊藤委員長：

道路行政との関わりもあり、難しい課題であるが、名案があれば是非ともお伺いしたい。

矢野委員：

「(2) 基本目標について（基本テーマと目標設定）ウ 目黒区の生物多様性の現状例と主な課題」について、目黒区で生物がヒートアイランド現象の影響を受けた例はあるか。

事務局：

地球温暖化による影響の観察例は多くなってきている。区レベルでは、ヒートアイランド現象が生き物に与える影響についてのデータは持ち合わせていない。

矢野委員：

シュロ、センリョウ、マンリョウ、暖地性のチョウが増加している。また、生物暦も変化してきている。春が早くなって、秋が遅くなっている。従来の開花時期なども随分違ってきている。観察するうえでは、温暖化の影響も勘案すべきである。

伊藤委員長：

東大駒場キャンパスでもシュロが増えてきており、管理しているものの追いつかない現状がある。

上田委員：

「(2) 基本目標について（基本テーマと目標設定）ウ 目黒区の生物多様性の現状例と主な課題」の目黒川・呑川などの河川をとおして東京湾の生態系ともつながっているとあるが、目黒区の呑川は大半が暗渠になっているので、この表現については違和感を覚える。

事務局（みどりと公園課長）：

呑川については、緑が丘からは開渠になっている。しかし、水源がないので、処理場の水を流している。

市田委員：

生物多様性を区民に普及したいという考えはあるが、区民の個人個人が生物多様性に配慮した生活をするというのはある程度、限界があると考え。したがって、企業に対して普及してはどうか。例えば、生物多様性に配慮した何かをすると表彰されるというようなことがあると普及啓発になると考えられる。

伊藤委員長：

企業に対しては指針を示さないと、こういうことが可能であれば進めてください、というような何か指針を作らないと企業も動きづらい。

上田委員：

「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)エ 計画の基本方針」あるいは、「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)オ 計画の目標」の「区分1・目標4 野鳥の年間確認種数50種以上を維持」と関係するが、“野鳥”というようにやや限定的に記載されているが、ここでも先程の矢野委員の意見も踏まえ、チョウについても含めると考えてよいのか。

事務局：

限定して鳥類ということではない。

これから文言などについては、委員会の意見を踏まえて改めていく予定である。

伊藤委員長：

生き物によって、ネットワークは多様である。ネットワークとは単に地域的なネットワークだけではなく、生き物と生き物の間のネットワークもあるので、そこを強調したほうが良いと考える。

上田委員：

「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)オ 計画の目標」で、一人当たりの公園面積の拡大とあるが、生物の生息環境にとっては“土”が非常に大事だと思っている。公園の面積の拡大については、できるだけ“土”のある公園、“地面”のある公園にすることが生物多様性の観点から重要と考えられる。

伊藤委員長：

確かに、コンクリートだけで固められた公園では、面積が増えたとしてもどうしようもない。

西村委員：

「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)エ 計画の基本方針」の「1) 地域戦略策定に向けた基本的な方針」において、区民一人ひとりが、命のつながりとか生物多様性を理解してもらうよりは、触れ合う機会を増やした方がよいと思う。触れ合う機会が増えれば自然と子供は興味を持って調べるようになる。区民に分からせる、というような表現では、やや硬いという印象を受ける。触れ合う機会を広げましょう、というような表現の方が良いと思う。

(3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）

担当：みどりと公園課長・・・「資料 3 (3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）」について説明

【質疑応答】

早野委員：

「資料 3-2 時が培う 目黒区の生物多様性」は、大変興味深い年表である。目黒区では子供たちに環境のメッセージを伝えるビデオを多く作っているが、書庫に在庫が多くあるものの、自宅にビデオを再生できる機器がなくなっている。今後は IT が盛んになり、そういった媒体でみんなに見せていく方向になると思う。今、教えている学生たちに環境の絵本を作らせており、原作者である学生たちに印刷して返そうとしているが、印刷代がかかる。そこで、印刷よりも安価の IT で閲覧することができるようになれば、学校の先生方も教材として使うことができる。電子媒体で閲覧することが可能であれば、環境教育の面から素晴らしい教材になると考えられるので、完成するのを楽しみにしている。

伊藤委員長：

内容が多岐に渡っているので、まとめるのは困難かと思われるが、計画の中で電子化など可能であるならば、取り組んでいきたい内容である。

市田委員：

野鳥の住める環境づくりという表現については、上田委員より指摘があったとおり、野鳥だけに着目すれば良いというわけではないと私自身も考えている。しかし、ひとつの言葉として、野鳥をシンボルとするのは良いと考える。

説明の中で、虫とつながっているなどといったように、生き物とのつながりを表現できれば良い。

例えば、シジュウカラが子育てするには、チョウなどの幼虫も必要になるというように、全てがつながっている。チョウがシンボルになってもつながりを表現することはできるが、生態系の上位にいる野鳥の方がシンボルになりやすいと思う。

伊藤委員長：

「資料 3 (3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）エ 生物多様性確保に向けた配慮事項（目黒区）」の生態系ネットワークの拠点を示すグラフは、仮にまとめた例という観点で見れば良い。もう少し詳しく解析しているものの、努力量をどう表現するか、つまり観察の数をどう表現するか、ということが難しい。

上田委員：

「資料 3 (3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）エ 生物多様性確保に向けた配慮事項（目黒区）」の公園などの具体的な生物多様性配慮指針の例を見ると、目黒区の生物多様性に配慮した公園管理は、他の区や都立公園と比べて非常に進んでいると考えられるので、今後もこの方向で進めていくことを希望する。

また、生物多様性、と口で言うのは簡単ではあるが、人々にとって住みやすい環境と生物多様性は、時に緊張関係になることもある。生き物がにぎやかという表現と虫が湧いているという表現は表裏一体である。この観点から言えば、豊かな緑から生じる落ち葉は、一般的には厄介物である。落葉樹が多い緑地の付近などは路上などに落ち葉が多くなると考えられるが、落ち葉掃きが生物多様性の取り組みに組み込まれないものか。

伊藤委員長：目黒区には落ち葉に関する施策はあるか。

事務局（都市整備部長）：

落ち葉掻きが地域コミュニティ構築に一役買うことはあったが、最近では区が落ち葉掻き掃きをほとんどやってしまうようになっている。しかし、地域によっては、住民自身が落ち葉掻きをやっている場所もあるが、落ち葉掻きを区に依頼する電話が多いというのが現状である。委員からご意見があったとおり、落ち葉掻きはつながり作りのきっかけになると思う。

伊藤委員長：集めた落ち葉がゴミになるのと、資源になるのとでは区民の捉え方が違ってくる。

事務局：

区立公園の「落ち葉ンク」では、駒場野公園などの大規模な公園で堆肥にして植え込みに撒くなど行っている。

伊藤委員長：

落ち葉は単なるゴミでなく、資源のひとつであるという考え方が定着すると良いと考える。落ち葉は実際のところ、窒素やリンといった元素の源になるという観点から重要である。こういった認識を区民へわかりやすく説明できると良い。

石川委員：

中目黒公園内には有機クラブというクラブがあって、落ち葉で腐葉土を作っている。腐葉土を作れば、その温度が上がってカブトムシが湧き、非常に良質な腐葉土が出来上がっている。落ち葉も分解が進めば、土に返り、かさも減る。ちょっとした庭でも、落ち葉を積んでおくだけで、土に返っていき、虫の住処にもなる。このような内容について、中目黒公園の花と緑の学習館ではエコガーデニングという授業を開いているので、他の場所でもそのような機会を設けるのが良いと思う。

倉本副委員長：

上田委員の意見にもあったが、目黒区の公園管理が都立公園よりも進んでいるということに異論は無い。林試の森公園についても計画ができれば、目黒区として積極的に働きかけていくことを希望する。

渡島委員：

施策の方向性までのお話を伺っていて、意見や感想となるが、教育の場面への期待が大きいことが分かった。「資料 3-2 時が培う 目黒区の生物多様性」のくらしのすがたを見ると、大人が改めて生物多様性を理解することも大事だが、感性豊かな子供たちが、その視点を持って理解することも大事であると感じた。「資料 6 平成 24 年度の各種調査結果」は、子供たちの感想を教育者が理解し、教育者が生物多様性と絡めて啓発していかなければならない資料である。学校現場も ICT が進んでいるので、そういう手段を使って、視野を広めるということも求められている。一方で、自然と触れ合うという機会が減りつつあるのではないかと思う。小学校 22 校で落ち葉の堆肥づくりに取り組んでいるが、昔は当然の事柄であったが、現在は、落ち葉をゴミとして出してしまう、ということが一般化している。残念ながら、本校でも落ち葉は大方、ゴミとしている。子供たちの豊かな心情面を勘案し、ボランティアとして取り組んでいるような取り組みを整理し、生物多様性の担い手として育てていかなければならないとさらに強く感じた。

伊藤委員長：

教育の問題はかなり重点的な議題である。教員の側に落ち葉に関する知識がないということも考えられる。したがって、子供たちへ広めるには、まず教員へ広めていくということが重要であると考えられる。

具体的な文言作りについては、次回の検討委員会で議論できればよいと思うので、今回は視点や方向性について見ていただければ良い。

(4)懇談会の開催に向けて

担当：みどりと公園課長・・・「資料4(4) 懇談会の開催に向けて」について説明

【質疑応答】

伊藤委員長：

地域戦略を策定する上で、住民の参加というものを促すという目的から、1か所ではなく複数か所で開催する予定である。意見を伺いたい。

倉本副委員長：

委員も参加できるのか。

事務局：

対応については、これから検討するが、なるべく多くの区民の声をお伺いしたいので、ひとつのパターンではなく、色々な参加団体の意見ややり方を活かしていきたい。

伊藤委員長：

委員は講師として参加することも考えられる。また、参加希望者ができるだけ気軽に参加できるものが望ましい。あまり堅苦しくなく、一緒に運営していくというような方向性があると良いと考えられる。二年前に大学で、虫を見る、というイベントを行ったが、結構、色々な虫がいるものである。

西村委員：

親子連れイベントが良い。例えば、自由が丘でやるのであれば、商店街の自然、住宅地の自然、公園の自然といったように色々なテーマがあっても良い。その方が宣伝もしやすいし、後からのアピールもしやすくなると思う。

伊藤委員長：

実際に歩いてみて、歩いた後に、説明するというような流れでも良いかもしれない。

早野委員：

環境ナビゲーター養成講座に関わっており、五期生まで修了したが、そのような方たちがもっと活躍できる場があれば良いと考える。

今後、懇談会をやられるのであれば、養成講座修了生も関わって、何らかのデータ収集をできないかと考えている。

伊藤委員長：

「歩く」という行為は重要である。モデルコースの整備、ガイドや案内板の整備も考えられる。

早野委員：

既に7つぐらいの商店街が目黒区のものびり散歩に参加している。商店街の人たちと環境ナビゲーター養成講座の修了生がドッキングして、来られた方々に生物多様性をどう考えるのかについてアンケート調査をし、その調査で得られた声を商店街へ返してあげる、という流れになると、非常に良いと思う。

伊藤委員長：

地域の活性化にもつながると思う。

市田委員：

商店街は、目黒区の生物多様性を考えるうえでキーワードになると思う。街路樹に何を植えているのかではなくて、八百屋、魚屋で売っている商品がどこから来たのか、また、そういった自然の恵みを我々は享受しているということについて懇談できる場も重要と考える。

伊藤委員長：

生物多様性に配慮した商品を仕入れることも重要である。

早野委員：

エコに結びつけることのできる素晴らしい商品を多く売っている店もある。そのメッセージをうまく伝えることが出来ないでいる場合もある。エコな商品を扱っている店を口コミで広めてあげたり、ツイッターなどの色々なメディアを活用して広めてあげることにもつながる懇談会を開催できれば良いと考える。

伊藤委員長：

そのような店があるということの宣伝は目黒区としてはできないと思うが、NGOのような形で、懇談会の中で育てていく、発信をしていくというのが重要になると考える。

目黒区のスタンスとしては、そのようなことができる環境づくりをする、ということになると思う。

(5) 「80 選のいきものたち (仮称)」 の作成について

担当：みどりと公園課長・・・「資料 5 (5) 「80 選のいきものたち (仮称)」 の作成について」について説明

【質疑応答】

上田委員：

夜行性であることなどを勘案すると、ヤモリが 1 位であることについて、個人的に驚いている。他の委員の意見を伺いたい。

西村委員：

ヤモリは身近でリアルな自然である。また、「家守」という良いイメージがあるからではないか。

早野委員：

マンションに住んでいる子供たちはヤモリを見る機会が少ないだろう。そういった子供たちへヤモリの実物を見せることができる教材は何かないだろうか。

目黒区でヤモリの絵本やキャラクターを作ってはどうか。

渡島委員：

学校でも意図して生き物を見せていく、という姿勢が大事であるとする。また、子供たちはミニトマト等を育てると、収穫までたどり着き、ミニトマトを食べることができなかつた子供がミニトマトを食べることができるようになる、という事例もある。こういうことから、本物に触れる良さということも重要であるとする。

伊藤委員長：

80 選のいきもののように「選ぶ」ということだけにとどまらず、生き物を見せていく、ということが大事になってくると思う。

(6) その他

担当：みどりと公園課長・・・「資料 9 意見の追加提出用紙について」説明。
意見の追加提出用紙については、今月の 26 日を期限としてご意見を伺いたい。

3 第 3 回目黒区生物多様性地域戦略 (仮称) 策定検討委員会に日程について
事務局：第 3 回策定検討委員会は以下の日程で行う予定である。

日時：平成 25 年 6 月 7 日 (金) 午後 6 時から午後 8 時半

場所：目黒区総合庁舎会議室